

他の専門部会からの提案について

8月26日に開催された総合政策審議会第1回企画部会では、他部会への提案が議題となり、当部会には以下の2つの提案があった。他部会からの提案は、提案を受けた部会において協議し、その結果を10月15日に開催される第2回総合政策審議会で報告することとなっている。

ふるさと定着回帰部会からの提案 2件

1	提案内容	介護・福祉人材の不足に対応するため、専門課程を高校に設置することはできないか。
	県の取組状況	県では、国家資格である介護福祉士の取得を目指すことができる高校として、六郷高校福祉科、湯沢翔北高校専攻科介護福祉科の2校を設置しているほか、「介護職員初任者研修」修了を目指すコースを大館桂桜高校、能代西高校、増田高校、雄勝高校の4校に設置している。また、福祉に関する広い教養を修得するコースを有する高校を6校設置している。
	高橋部会長コメント	12の県立高校で福祉教育を進めているところであるが、資格を取得できる学校を中央地区や県北地区にも広げていく余地があると思われるため、専門部会で検討したい。 - 少子化等による生徒数の減少により学校の統廃合も進んでいることから、他の分野とのバランスを考えつつ進めていかなければならない。

2	提案内容	キャリア教育を一步進めて、総合的な学習の時間や長期休業期間を利用し、地元企業や農業法人、森林組合、漁業組合、社会福祉施設等と在学中から関係性を持つことで地元就職を促進する取組を行うことはできないか。また、高校のカリキュラムに、起業・創業についての学習や、地域課題の解決など地域づくりのリーダーとなる人材の育成を取り入れることはできないか。
	県の取組状況	- 郷土愛や進路意識を高めていく取組の一つとして、県立高校では高校2年生までに全ての生徒がインターンシップ又はボランティアを行うこととしており、その体験先は地元企業はもとより農業法人、森林組合、社会福祉施設等も含め多岐に渡っている。 - 起業等に関しては、商業科目を中心に起業家精神に係る学習活動を行っているほか、進学希望の生徒に対しても大学との連携事業を通じて起業家の講話を聞く機会を設けるなどしている。 - また、昨年度から進学希望者の多い高校3校に配置したキャリア探究アドバイザーが、インターンシップや地域の課題研究の支援に加え、地域企業や地域人材の発掘、地域資源の活用等に取り組んでおり、郷土愛の醸成とともに、大学卒業後の県内就職の促進を図っている。
	高橋部会長コメント	- 県内には、まだ広く知られていない魅力的な県内企業が数多くあり、こうした企業と児童生徒をつなげるためにも、企業体験やインターンシップは有効である。また、自然の中で心豊かに生きていくことが今後評価されてくる可能性があり、農業・林業などの魅力を理解させるためにも体験活動は重要である。 - 県では企業体験等を支援する「Aーキャリアシステム」を昨年スタートしたところであり、専門部会では当システムの活用促進について議論している。 - 地域課題を解決する人材育成については、主体性や課題研究等が評価される現在の教育制度改革（新学習指導要領、大学入試改革）にも通じるものがある。

参考 1 他部会から他部会への提案だが、教育関連の発言等があったもの

ふるさと定着回帰部会 から 農林水産部会（農林水産部）への提案	
提案内容	県外の子どもたちの受入や、地元の高校生の夏季休業中の受入、インターンシップ等により農業法人・農家と学校等との連携を深め、将来的には就農・若者の定着回帰につながるような環境づくりを行うことはできないか。
県の取組状況	・交流人口の拡大に向け、中山間地域の特色を生かした都市との交流活動等を支援する「魅力ある秋田の里づくり総合支援事業」を関係団体へ周知し、小学生等の体験教育に係る取組を支援している。 ・また、若者の就農定着に向け、県内農業高校と連携し、高校生に対するインターンシップや先進農家視察、若手農業者との交流等を実施している。特にインターンシップについては、昨年度から対象を6校に拡大し、より多くの高校生に農業現場での職業体験をしてもらえるよう努めている。
今野部会長コメント	・最近、我社（今野農園：大潟村）に入社した農業高校の卒業生に聞いたところ、高校時代に大潟村でインターンシップをした仲間4人全員が農業関係に勤めているとのことで、取組そのものはうまく回っていると思う。 ・どの業種にも言えることだが、児童生徒に農業の魅力をしっかり伝えること、来てくれた人の離職を防ぎ、いかに育てていくかが課題である。
高橋部会長コメント	・農業にも地形や規模で様々な形態があることから、それぞれのケースで利益を確保できるビジネスモデルや省力化の手法等について様々な分野の知恵を集めて考えていく必要がある。

産業振興部会 から ふるさと定着回帰部会（あきた未来創造部）への提案	
提案内容	Aターン就職の促進に当たり、県外から仕事を辞めて戻ってきた際の情報提供の機会として、産・学・官・金の連携による県内就職に関するプラットフォームを構築してはどうか。
県の取組状況	・Aターン就職希望者に対しては、東京事務所内のAターンプラザにおいて、Aターン就職相談・支援を実施するとともに、県内企業とのマッチング機会を提供するため、Aターンフェアを年6回開催している。さらに、今年度から「あきた就職ナビ」を開設し、システム内で県内企業やAターン求人の情報提供、就職マッチング支援を実施している。 ・若者の県内就職支援に関しては、早期離職者への対応を含め、秋田労働局や商工団体、県内大学・短大、県庁関係課（移住・定住促進課、雇用労働政策課、教育庁関係課）などが一堂に会する会議において、支援策等の情報共有を図っている。
藤原部会長コメント	・企業・行政・学校と連携して、若者から問い合わせがあった場合にはスムーズに次につなげていく仕組みが必要であると考えている。
高橋部会長コメント	・県内就職に関するプラットフォームの構築は教育関係からも望ましい。 ・進学希望者の多い高校においては、大学卒業後を見越した就職支援や情報提供を充実させていく必要があると考えている。

参考 2 当部会から他部会への提案

人・もの交流拡大部会への提案（観光文化スポーツ部）への提案	
提案内容	男鹿のナマハゲを含む「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを絶好の機会と捉え、インバウンドの増加も念頭に置きながら、これまで以上に積極的な売り込みや、地域の観光振興の後押しをすべきではないか。
県の取組状況	・男鹿のナマハゲについては、本県の玄関口である秋田駅及び秋田空港でのお出迎えや日本最大の旅行博であるツーリズムEXPOジャパンに参加しているほか、訪日外国人が増加している台湾やタイで行うイベント等に出演するなど、本県のキラーコンテンツとして国内外において広くPRを行っている。 ・また、今年5月に秋田市で開催した「これが秋田だ！食と芸能大祭典」では、ユネスコ無形文化遺産登録を記念し、20匹以上のナマハゲが練り歩きを行い、男鹿のナマハゲのアピールを行ったほか、10月に男鹿市において開催される「新・秋田の行事」では、男鹿のナマハゲをはじめ、本県を代表する伝統芸能や祭りが一堂に会し、本県の文化を大々的にPRすることとしている。
渡邊部会長コメント	・海外からの観光客については、台湾やタイを中心にリピーターが多くなってきている。 ・また、最近は体験型観光の注目が高まっていることから、男鹿のナマハゲも体験型コンテンツとして仕立て上げていきながら、満足度の高い観光につなげていきたい。